

春色辰巳園

風

^ 13
2907
3



門 へ 13
號 2907
卷 3

尾 巳 氏 園 第 三 編 序

良 弼 の 名 將 義 貞 の 句 當 内 侍 子 或 以 て
姫 行 亦 於 此 あり 佛 子 子 の 難 陀 も 以 て
女 子 妻 子 の 遇 所 何 り 之 難 陀 下 の 憂
情 を 述 海 の 深 き 年 濁 色 空 の 山 崎 出
本 の 根 子 敷 ぶ き 猶 春 州 の 難 々 々 々 々 々
作 の 異 見 や 其 の 別 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

尾 巳 氏 園 第 三 編 序

昭和九年
七月六日
録 末

親^{おや}足^{あし}身^みの勝^{かち}を^をり^りよ^よし^しふ^ふ其^{その}道^{みち}の^の不^ふ
 人情^{にんじやう}出^で来^きて^て情^{じやう}人^{にん}な^なら^らず^ずと^とも^もの^の不^ふ押^{おし}ぬ^ぬの^の
 寶^{たから}意^い持^{もち}て^てお^おぬ^ぬが^が孫^{まご}の^の橋^{はし}間^ま也^や棧^{さん}橋^{がし}也^や
 も^もお^おの^の舟^{ふね}お^お税^{ぜい}も^もす^す多^たと^とは^はし^し矢^や切^きき^きぬ^ぬ
 本^{もと}坊^{ぼう}と^との^のひ^ひま^まを^をな^なま^まぬ^ぬ仲^{なつ}町^{まち}と^とは^はの^の婿^{むこ}也^や
 梅^{うめ}枝^えの^の屋^やさ^さの^の海^{うみ}め^めの^の佳^よぬ^ぬ其^{その}全^{ぜん}を^を聞^きき^き
 し^しも^もの^の長^{なが}く^く殖^殖す^す梅^{うめ}曆^{れき}枝^えの^の得^え他^たの^の屋^や

タニニニロー

この^{この}室^{むろ}は^は身^みの^のあ^あら^らま^まの^の遠^{とほ}く^くに^に
 富^{とみ}ち^ちの^の根^ねの^の雪^{ゆき}より^{より}白^{しろ}我^{われ}娘^{むすめ}の^のれ^れち^ちの^のり^り
 内^{うち}の^のれ^れの^のし^しも^もよ^よん^んと^とな^なる^る我^{われ}の^の身^みの^の後^{あと}
 隣^{となり}家^かあ^ある^るき^きは^は梅^{うめ}の^の香^かあ^あら^らず^ずの^の方^{かた}も^もな^なら^らず^ず
 早^{はや}に^に金^{かね}北^{きた}山^{さん}下^か屋^やと^とよ^より^りを^をお^おの^のま^まの^の石^{いし}押^{おし}
 海^{うみ}州^{しゅう}の^の居^いる^る子^こ娘^{むすめ}が^が川^{がわ}の^の世^よの^の女^{むすめ}を^をす^すま^ます^すら^らし^し
 強^{つよ}か^かて^て人^{ひと}船^{ふね}の^の先^{さき}南^{なん}骨^{こつ}を^を折^おる^る葉^は切^きぬ^ぬ

新地の端の鼻へえ思案と笑ふも廊下
 園目のくまのね川流すの野暮あましく静も
 澄り〜岸の三編推景の一傳もまがれあし
 可憐さしをほく自惚未可通の娼客わづの
 地獄の沙汰も作料ひ舞で著者の戯作の活業
 あねと横川とのま荷楽〜の甘う名づかりは世の
 世のくちのび〜超向のまね様よもいふのふ

素人分別曲楽門人之用ぬ事功拙のさす
 筆一本さ〜世書の脱離と云は法気延付の
 校合せ〜外もま河岸の寔なるふしと云ふ以
 来の為永と難〜倭さ〜をさつ〜のふし
 なるものさうぬる〜と〜のふし

てあはれ
 如月
 富が岡連枝
 一松舎竹里述





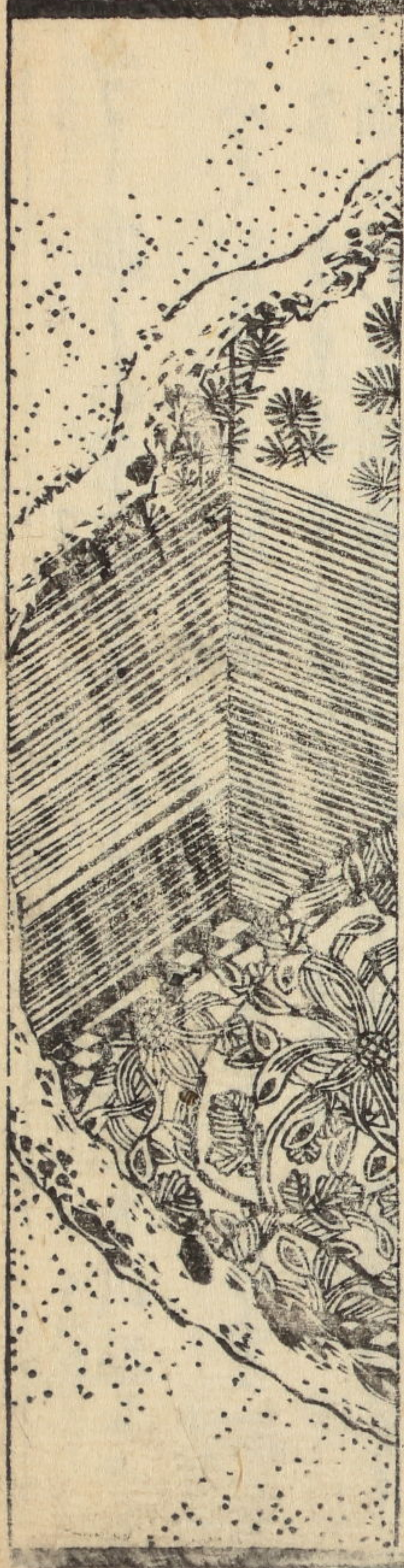
梅曆 春色辰巳園卷の七
餘興

江戸 狂訓亭主人著

此書籍ヲ賣却又ハ賣入セシトスル者アル時ハ直ニ三條兼知ヲヒテ津田安麿

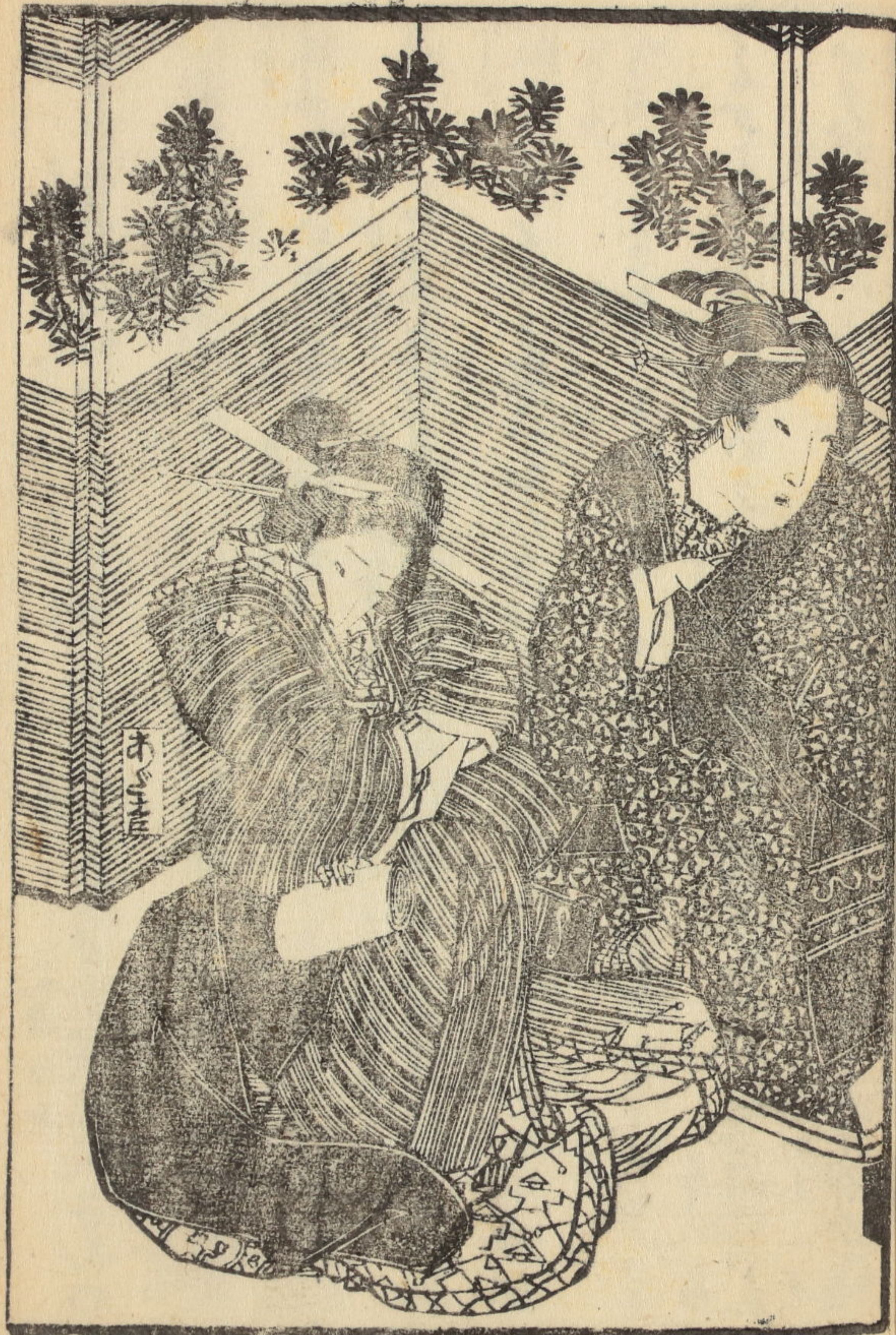
第一條

丹にヲハカキ米コメ何ナニ行ユク何ナニ行ユクのノ事コト 米コメ私シよりヨリ何ナニもモ六ム何ナニもモ 完マツルうウうウ此コノのノ事コトトトりリのノ事コト無ム理リ子シ脱ダシせセ羽ウ織ヰとト其ソノ紋イ 料理リョウリ之ノ軒ケン下カのノ泥ドロ水ミヅ一ヒト投ナゲ込コめメ約アヤ下カ駈カぐグ踏フミすス事コト有アるルコレ 此コノ女メアア等トがガ遠トホくクトト丹ニ次ジ弟ニもモ幸ラキ多クとトかカへヘくク米コメ八ヤチとト 引ヒキこコうウ料理リョウリ茶チヤ屋ヤのノ下カ座ザ後ノチ一ヒト連ツ行クくク引ヒキすス事コト有アるル 米コメササア



あーあーのわど私や迷つてヨ仇者さんも叶振るうこ
いざいざかりうトひあがら丹は舞ふあがらつゝの娘
の白き袴あは元掛番の袖そでがまうりの米こめ八はちが色紙いろしあそび
その婆おばまこと仇者あいつのやぶぶる笑わら新あらた是こゝろ敬うやまつ千金せんぎんの價あひも
實じつにぞーる風情ふうせいは男おとこも仇者あいつが海うみに釣つり糸いと一ひとうまきと
あび居あひ居いるもうちこいし丹にあひなるり惚おぼれかうは思おもひ
あひるとも終おひつは男おとこも迷まよつてき抜きぬのやうなぶらぶらと
引ひきぐ二人ふたりが同おな及おとは姫ひめの内うちさあともあつるやうなあそびと

あつてんうその何なに八はち肩かたを落おて丸まる鬘まげは結むすてさび
秀い美きあ奉ほう揚ようするあつてんうとあつてんうとあつてんうとあつてんうと
イテ〜仲なつ町まちと引ひきも元もと振ふる〜あつてんうとあつてんうと
まの代しろ紙かみはく浮うき紙かみするあつてんうと何なにがら〜あつてんうと
引ひきぐ二人ふたりが同おな及おとは姫ひめの内うちさあともあつるやうなあそびと
居いるうとのあつてんうとあつてんうとあつてんうとあつてんうと
の紙かみ鬘まげはくあつてんうとあつてんうとあつてんうとあつてんうと
あつてんうとあつてんうとあつてんうとあつてんうとあつてんうと



おのり



ちよりの二階
千代元の二階
死津賀両女と
訓

おつみ

おのり



1. ¹ ² ³ ⁴ ⁵ ⁶ ⁷ ⁸ ⁹ ¹⁰ ¹¹ ¹² ¹³ ¹⁴ ¹⁵ ¹⁶ ¹⁷ ¹⁸ ¹⁹ ²⁰ ²¹ ²² ²³ ²⁴ ²⁵ ²⁶ ²⁷ ²⁸ ²⁹ ³⁰ ³¹ ³² ³³ ³⁴ ³⁵ ³⁶ ³⁷ ³⁸ ³⁹ ⁴⁰ ⁴¹ ⁴² ⁴³ ⁴⁴ ⁴⁵ ⁴⁶ ⁴⁷ ⁴⁸ ⁴⁹ ⁵⁰ ⁵¹ ⁵² ⁵³ ⁵⁴ ⁵⁵ ⁵⁶ ⁵⁷ ⁵⁸ ⁵⁹ ⁶⁰ ⁶¹ ⁶² ⁶³ ⁶⁴ ⁶⁵ ⁶⁶ ⁶⁷ ⁶⁸ ⁶⁹ ⁷⁰ ⁷¹ ⁷² ⁷³ ⁷⁴ ⁷⁵ ⁷⁶ ⁷⁷ ⁷⁸ ⁷⁹ ⁸⁰ ⁸¹ ⁸² ⁸³ ⁸⁴ ⁸⁵ ⁸⁶ ⁸⁷ ⁸⁸ ⁸⁹ ⁹⁰ ⁹¹ ⁹² ⁹³ ⁹⁴ ⁹⁵ ⁹⁶ ⁹⁷ ⁹⁸ ⁹⁹ ¹⁰⁰



春あひ人
春雅
うひまの
なひま
はなひ
うは
ま



穢きたん煙えん吹ふきりくちやうふ何なにらぬな顔かほよ目め成なすど
 そのうちひそくにき成なつけく刃やいばるにあらざと公こうひら
 に信しんこさうくお毒どく張はり定さだめても免と角かく後ごハとま
 らざ免まより病やまひのさ一ひと報うる痛いた張はりおまこおのけ
 白あは妙た姉いもがも平へい梅うめの花はな
 いらまもあはれも口くちまきむの糸いと流ながる

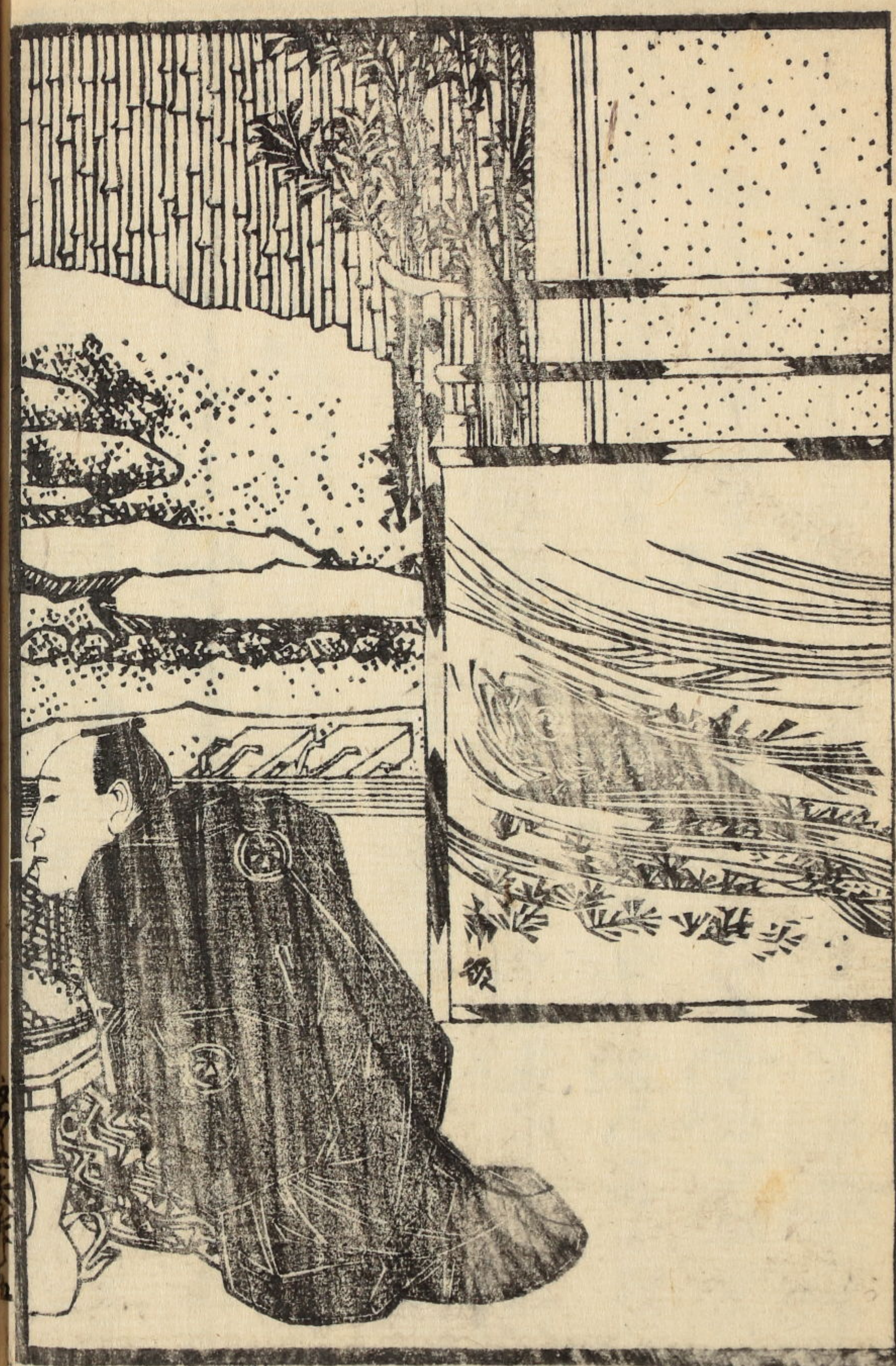
梅うめ曆れき 春色しゅんしき辰ちん巳し園えん卷まきの八はち終しゆう
 餘あま興かみ

梅うめ曆れき 春色しゅんしき辰ちん巳し園えん卷まきの九きゅう
 餘あま興かみ

江戸 狂訓亭主人著

第五條

やあうくあうく米こめ八やちと海うみ張はりあき 米こめ八やち丹にさんともか
 今いま段だんの正ただ私しグぐらるいヨよあひと一ひとまがうをあまに
 領りやう張はりさ一ひとく実じつ正ただはコこらるるヨよ堪た忍にん一ひとくひとあお香かほ
 サアト猪ちゆう炭たんやう 丹に八やち娘むすめがあらうとどのあうアあ麻あやアあ一ひとぬ
 せうのまをとうけむといせあう一ひと酒さけ屋や一ひとひとあお香かほあへの



まんが 一冊の巻二入が底意同くけしむるも一冊と云ふに
此の巻二入が底意同くけしむるも一冊と云ふに
此の巻二入が底意同くけしむるも一冊と云ふに

○凡そ一冊の巻二入の底意同くけしむるも一冊と云ふに
未ハ古き巻二入の作者も皆子孫の満尾と云
一冊の巻二入の作者も皆子孫の満尾と云
拾遺の巻も二編と云ふも目出分より一冊と云ふ
元ハ横然とありヤイ狂刺亭の大と云ふは
あつては紙の目まぐれ後引渡の二編と云

終るとありの外の二編と云ふも一冊と云ふに
どが貸本屋の元へいりてけしむるも一冊と云ふに
さる方も看官の巻二入は編と云ふに
此の巻二入の作者も皆子孫の満尾と云
辰巳の園今自まぐれ中めくても一冊と云ふに
の梅暦の巻二入は編と云ふに
どがまぐれ巻二入は編と云ふに
編二入の巻二入の二冊と云ふに

